

令和6年度 主要事業評価シート

① 基本事項	計画コード	23013	事業名	がん患者支援事業		評価分類	A1	
	事業手法	<input type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 補助等 <input type="checkbox"/> その他()						
	施策体系	施策の大綱	02:健康で生きがいを持てる暮らしの充実		予算科目	会計	01:一般会計	
		基本施策	01:健康づくりの推進と地域医療の充実			款	04:衛生費	
		施策の方向	03:疾病予防と重症化予防の推進			項	01:保健衛生費	
重点プロジェクト	-		目	01:保健衛生総務費				
事業期間	R 6 年度	~	R - 年度	主な根拠法令等	-			

担当部署	
部	健康福祉部
課	健康政策課 健康づくりG

② 事業概要 (P)	事業の必要性(経緯・背景等)	事業の対象(誰に、何に対して)	事業の目的(どのような状態にしたいのか)	事業の内容(どのような取組を行うのか)
	近年、がん医療が進歩したことにより、治療を続けながら社会生活を送る人が増えている。治療中であつても自分らしく生活を送ることができるよう、がん患者の治療と社会参加を支援し、療養生活の質の維持・向上を図る必要がある。	がん患者、ドナー登録者及びドナー登録者所属事業所	がん患者の治療と社会参加を支援し、療養生活の質の維持・向上を図る。また、公益財団法人骨髓移植推進財団が実施する骨髓バンク事業におけるドナー登録者の増加を図る。	がんの治療に伴う外見の変化を予防または補完する医療用ウィッグなどの補正具等の購入費を助成する。 40歳未満のがん患者の方が、住み慣れた自宅で自分らしく安心して日常生活を送ることができるよう、在宅での生活支援に係る費用を助成する。 骨髓バンク事業におけるドナー及びドナーが所属する事業所の負担軽減を図るため助成金を交付する。

年度		令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	
③ 事業の実施状況 (P・D)	事業計画			○医療用ウィッグ等購入費助成金の交付 ○若年在宅支援サービス費助成金の交付 ○骨髓等移植ドナー助成金の交付	○医療用ウィッグ等購入費助成金の交付 ○若年在宅支援サービス費助成金の交付 ○骨髓等移植ドナー助成金の交付	
	活動実績 (計画通り実施できたか)			医療用ウィッグ等購入費助成金の交付22件、若年在宅支援サービス費助成金の交付0件、骨髓等移植ドナー助成金の交付0件 事業の周知のために、広報、ホームページでの情報提供を行い、県を通じて地域がん診療連携拠点病院等にも助成の実施について情報提供を行った。		
計画額	事業費	国・県支出金		2,200千円	943千円	1,200千円
		地方債		980千円	436千円	600千円
		その他				
		一般財源			1,220千円	507千円
	決算額	事業費				424千円
	国・県支出金				212千円	
	地方債				0千円	
	その他				0千円	
	一般財源				212千円	
①期間内計画額(R4-7)		3,400千円	②期間外計画額(R8-)	-	①+②総計画額	3,400千円

(令和6年度予算額の内訳)

前年度からの繰越額	0千円
当年度の最終予算額	943千円
次年度への繰越額	0千円

指標名	説明等	種別	単位	区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
④ 指標(C)	医療用ウィッグ等購入費助成金交付件数	活動	件	計画値			30	30
				実績値			22	
若年在宅支援サービス費助成金交付件数		活動	件	計画値			2	1
				実績値			0	
骨髓等移植ドナー助成金交付件数		活動	件	計画値			3	1
				実績値			0	

判定	事業実施により得られた成果(誰に(何に)対してどのような効果があったか)
⑤ 成果(C) B	医療用ウィッグ等購入費助成金の交付を行うことで、がん患者の治療と社会生活の支援を図ることができた。また、助成金制度の周知については市の広報やホームページを活用し、広く市民に周知するとともに、県を通じて地域がん診療連携拠点病院等にも周知を行ったことにより、対象者となる可能性の高い人に情報が届きやすくなり、制度の認知度向上と利用促進につなげることができた。
まずまず成果を得た	

事業の対象	事業の目的
がん患者、ドナー登録者及びドナー登録者所属事業所	がん患者の治療と社会参加を支援し、療養生活の質の維持・向上を図る。また、公益財団法人骨髓移植推進財団が実施する骨髓バンク事業におけるドナー登録者の増加を図る。

(再掲)

事業の達成状況等を踏まえた課題事項
⑥ 課題(C)
助成金制度の適切な運用を継続するためには、必要な人が、必要な時に、助成金を利用できるよう、引き続き、市の広報やホームページを活用した周知につとめ、医療用ウィッグ等購入費助成金の交付、若年在宅支援サービス費助成金の交付、骨髓等移植ドナー助成金の対象者が制度を認識し、適切に活用できるよう情報提供の充実を図ることが必要である。

方向性	
⑦ 事業の展開(A)	
継続(現状維持) 現状どおり事業を継続する	
改善・見直し内容	
令和7年度で対応する(した)もの 継続して周知啓発を行い、医療用ウィッグ等購入費助成金の交付、若年在宅支援サービス費助成金の交付、骨髓等移植ドナー助成金の交付について継続実施していく。	令和8年度以降で対応するもの がん医療が進歩する中で、必要とされている支援について、より効果的なことを実践している先行市や県内市町の状況を情報収集し、必要な支援について検討する。

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
【履歴】			B	
成果判定				
事業展開			継続(現状維持)	

1次評価者	健康政策課 健康づくりG GL 小坂 聡子
最終評価者	健康政策課 課長 櫻井 ころ